



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

Press Release
2020.10/31

DEKA HAYASHI MASAHIKO EXHIBITION

2020.11/16 Mon - 11/23 Mon 11/19 木曜日休廊

12:00-18:00



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

DEKA HAYASHI MASAHIKO Exhibition
2020.11.16 Mon - 23 Mon (11/19 Thu Closed)
12:00 - 18:00

ギャラリー ヘプタゴン
〒602-8175
京都市上京区 下立売通 警護光院西入 中村町523
TEL: 080-7583-3388
info@heptagonworks.com
www.heptagonworks.com
・ギャラリーに駐車場はありません。
近隣のコインパーキングをご利用ください。

コロナウイルス感染症対策について
ご来場時の手洗い、手指消毒にご協力ください。アルコールを使用しています。
会期中は換気扇の稼働をいたします。
ご来場時のマスクご着用をお願いいたします。スタッフもマスクを着用いたします。
混雑を避けるため入場を制限いたす場合がございます。
当日体調の悪れない方、咳や発熱等感冒症状のある方、妊婦や体調に異常を感じる方は、ご来場をお控えください。
アレルギー等で顔の出る方は顔エチケットをお守りください。
精進を請え、会期中の日程変更がある場合があります。皆様を守るため、何卒ご理解いただけますようお願いいたします。

このたび、ギャラリー・ヘプタゴンでは“DEKA” 林雅彦 個展を開催いたします。

林雅彦 deka は立体・イラスト作品を中心に、日本・ドイツでの定期的な展覧会開催やデザインワークを行うなど多岐にわたり活躍するアーティスト。

近年では、巨大な紙にイメージを切り抜き、展示空間に大きくつるすインスタレーション作品に主に取り組みんでいます。

昨年度の、重要文化財杉本家住宅・蔵における個展以来1年ぶりとなる本展では、ギャラリー1階部分全体を使った新作の切り絵／影絵によるインスタレーション展示を行います。

ギャラリー内の展覧は18:00までですが、夜間にもライトアップしガラス越しに終日観ていただくことができます。ぜひこの機会に“DEKA” 林雅彦の世界観をご高覧ください。

DEKA HAYASHI MASAHIKO EXHIBITION

【作家ステートメント】

私は独自の表現方法を持っています。

アーティストとしての基本的な技法・素材はモノトーンの鉛筆画やペン画ですが、その時々的手段として木・漆・朽ちた錆などの表現を取り入れた立体物や、近年は切り絵・影絵の技法を取り入れ、時間と共に移り変わる空間を演出する巨大なインスタレーション作品などを発表しています。

モチーフとして私が好んで演出するものには2つの要素があります。

1つ目はアニミズムや精霊文化に見られるモノに宿る「もの」をそのままの容姿で描くのではなく、具象に近いかたちで抽象化し、デザインしたモノを描くという要素、
2つ目はグラフィティなどの現代的なストリート文化を独自解釈して描く要素です。

この2つの要素が溶け合い、そこに日本人独特の「間」の構築や構図も相まってシンプルで非常に綿密なイメージや情景・物語を演出することに成功していると考えています。

【PROFILE】

林 雅彦 deka | Masahiko HAYASHI deka

1972年 大阪生まれ 京都在住

京都精華大学 立体造形専攻科卒業



2019.11	Masahiko Hayashi deka Exhibition	重要文化財杉本家住宅・蔵 / 京都
2017.9	Illustrade 2017 ゲストアーティスト	ロストック美術館 / ドイツ
2014.11	Zwei 2	同時代ギャラリー / 京都
2013.9	萌木色の夢 林雅彦 DEKA EXHIBITION	LA GALERIE / 大阪)
2013.11	日向香と、時の影で 林雅彦 DEKA EXHIBITION	同時代ギャラリー / 京都
2012.10	Masahiko Hayashi deka Exhibition	Artquarium ロストック / ドイツ
2012.10	Masahiko Hayashi deka Exhibi	Galerie Knoetzmänn フランクフルト / ドイツ
～(他多数)		

【作家ウェブサイト】

<http://deka-hayashimasahiko.com>

DEKA HAYASHI MASAHIKO EXHIBITION



「たどりついた夢は、真夜中に」 (2017)
Material / Wood / Acrylic paint / Pencil / Paper
H 4000 / W 4000mm



ドイツ / ロストック美術館での展示 (2017)

ロストック美術館の展示

「illustrade2017」はドイツのイラストコンテストで、その年の決勝の舞台がロストック美術館だったのですが、私はそのコンテストのゲストアーティストとして特別展示しています。私はもともとロストック地域で滞在展示を何度かしていたこともあり、当初はコンテストに チャレンジャーとして応募したのですが、コンテスト委員会から「デカだったら実力がわかっているのでコンテストではなくゲストアーティストとして招待させてほしい」となり出展したものです。

モノクロの鉛筆画 「たどり着いた夢は、真夜中に」

この作品のきっかけは、上記の illustrade に出展することになった事でした。

初めて友人の住むドイツロストックにやってきたのが2009年の5月末、

ドイツ国内で開催される6月1日 / 芸術の日にたった1日だけの小さな展覧会を開催するために。

私は友人の家に着いたその足でロストック探索に出かけたのです。真夜中に友人と2人でたどり着いたのがこのロストック美術館で、その時私はいつかこの美術館で展示したいなあと、その思いを忘れないように真っ暗な美術館の前で写真を撮り、それをずっと願っていました。8年の月日が流れ、その願いが小さいですが叶うこととなり、illustrade2017に出展する絵を描こうと思った時に思いついたのがこの絵でした。

この絵は回廊の絵なのですが、丁度真ん中にドアノッカーがついて花が添えられています。

この回廊の扉一つ一つは1日1日を表していてその扉の上には月暦が刻まれています、私の願いが叶う / 初めて展示が開催される日は新月の日でしたので新月の扉の上に「初めまして、やっとここに来ましたよ」という気持ちを表すためにドアノッカーを、自分自身を讃える為に花束を添えてこの絵を描きました。そして自分の夢はあの日の真夜中にあったことをタイトルとしてつけました。

DEKA HAYASHI MASAHIKO EXHIBITION



杉本家住宅・蔵での展示 (2019)

「DEKAの文字の作品」

この作品を制作するきっかけとなったのは、「グラフィティ＝自由に壁に表現するもの」という図式なしに語る事の出来ないストリート文化の影響なのですが、私はこのデザインとしての著名性 / 作者としての匿名性のスタイルはとても好きだけれども「無許可に壁に書く」という行為はあまり好きではありません。

そこで思いついたのがこの作品です。

ストリート文化では作者としての匿名性というものを大切にしますが、私自身はアーティストですのでアーティストとしての著名性を表現するために「DEKA」の文字の中にドイツ語で私自身のステートメントを入れ、影絵という表現を持って壁に映し出してアーティストとしてのグラフィティの一つ、それを表現することにしたのです。